

飯館地域岩部ダム水系受益地

○ 飯館村役場



丸木橋堰



町堰

丸木橋堰

西原堰



西原堰

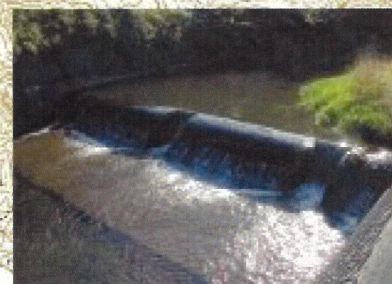
岩部ダム



岩部ダム記念碑

岩部貯水池建設工記念碑文
新田川は津と伊達と相馬と境とする花塚山に発し、阿武隈山系を横断し、延々六十キロメートル太平洋に注ぐ其の間飯館村及び原町市地区の水量約一千余ヘクタール、受益農家一千三百戸にわたり、用水を供給する。然るに水源は森林の荒廃等により連年水渇涸となり、一割千畝に達する千畝を被むる、こゝに於て同僚町民等相謀り、新田川の上流部に水源確保の貯池建設の一大事業を企図し、昭和二十六年三月新田川沿岸土地改良区を設立し、理事長に田原徳を推し、福島県及び農林省助成の下に集資として着工の運びとなる。工事請負、庄司建設株式会社により農業技術の科と結集し着工、工事は進歩したるも工事費に於て建設の運営面に於て不慮の滞滞を余儀なくせられ、昭和三十一年一月岩部ダム促進協議会の発足を見、ようやく軌道に復し、翌三十六年七月役員改選により、太田光栄氏後継理事長となる。同氏就任するや東部西河川の解決に努力し、着工以来十三里浦を経て昭和三十七年夏工事全く成る。着工以来理事長も工事請負者も幾多の難関に直面しながら、よく之を突破して成功有終の美と飾る。今や岩部貯池は約九十万トンの用水を満々と湛え、今後何なる長期にわたる千畝にも堪え、受益農民の悦び是れに勝るものはない。蓋し当地が農業経営の根幹となす水稲作の安定増産に資する処甚大である。茲に岩部貯池建設に因する概要を記し、永く後世に伝える。

佐藤 弘毅 撰



山部沢第一堰

山部沢第一堰

山部沢第二堰



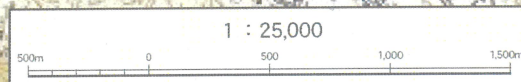
山部沢第二堰

クツワ掛堰



クツワ掛堰

風兼ダム



1 : 25,000